

ACT 通信

栃木県立足利中央特別支援学校

- ◆「あかるく つよく たすけあう子」の育成を目指し、コミュニティ・スクールでは「安心・安全」と「家庭や地域との連携」に力を入れています
- ◆第3回学校運営協議会（10月15日実施）において、これら2点についての「熟議」を行いました
- ◆地域の方々との関わりを通して、自己肯定感・自己有用感を高め、地域で働き、地域に貢献する一歩を踏み出せる教育活動の充実を図ります

第3回学校運営協議会について報告します

◆「土砂災害引渡しシミュレーション」フィードバック

まず、第2回学校運営協議会において実施した「土砂災害引渡しシミュレーション」のフィードバックを行いました。シミュレーション実施時には委員の方々から、①保護者車のロータリー内の混雑、公道まで渋滞、②保護者車の引渡し場所が分かりづらい（車の誘導、受付場所等）、③連絡方法（トランシーバーの使用等）、④職員の役割が分かりづらい（ビブスの着用）等が課題として挙げられていました。また、気象台や危機管理課からは、「基本の考え方として、大雨の場合には、①休校、②早めの下校を判断、③ゲリラ豪雨等、急激に雨量が増えた場合に、保護者引渡しを行う」という御指導がありました。それらを踏まえ、本校の危機管理委員会にて以下のことを改善案とし、今後詳細について学校全体で検討・検証を続けていく予定です。

危機管理委員会での改善案

- ① 役割分担を明確にする（ビブ着用）
- ② 情報を正確にキャッチし、早めの休校・下校を判断する
- ③ ルートを変更し、土砂災害・地震時の引渡し場所を一本化する
- ④ 小学部や重複学級からなど段階的な避難を検討する
- ⑤ 学部ごとの引渡し訓練を実施する

「子どもの安全支え隊」や「安心・安全」についての課題や改善案等を、以下のように分類をしながら、グループで共有しました。また、誰がどのように関わるかについても意見を出し合いました。

熟議 第1部「安心・安全」

第1回運営協議会での「安心・安全」についての話し合いの場において、すべてのグループより「登下校時の見守り」という声がありました。それを受け、学校から「子どもの安全支え隊」を提案しました。「保護者や地域の方がボランティア活動により学校安全及び学校教育活動の側面的支援を行うことで、安全・安心な教育環境を確保し、以て『地域とともにある特別支援学校づくり』の一助とすること」を趣旨とし、①学習活動中の見守り、②交通安全（下校時立哨等）、③環境整備（食堂清掃等）等を主な活動内容とするものです。学校・家庭・地域との連携の強化により児童生徒の安全を支えていきます。

この提案を踏まえ、学校安全の3領域（生活安全・交通安全・災害安全）において改善できることや連携して取り組めることについて熟議の時間を設けました。

今回も安足教育事務所の塩原様にファシリテーターをお願いしました。「シュウマイじゃんけん」というアイスブレイクにより場が和み、様々な意見が飛び交いました。また、「熟議」の途中で喫茶サービスを学ぶ高等部の生徒が珈琲を振る舞ってくれました。



①今すぐ取り組めること

- ボランティアを集めるのは難しいが、メリットの紹介や周知方法を工夫する
- 学校側の熱意を伝え、周知する
- 写真や図を使い、活動に参加してほしい人に目的を伝わりやすくする
- 保護者等にどの程度協力できそうか事前調査をする
- PTA や地域への呼びかけ
- 既存のボランティアとの区別
- 活動の地域の核となる人が必要
- さまざまな人が学校に出入りすることでの安全の確保（不審者対策等）
- 登下校の見守りに関して、ルールを守らない生徒がいた場合指導するのか
- 警察・行政・施設等との連携
- 地域の安全協会への呼びかけ
- 児童生徒が自分自身で身を守る自己防衛教育の推進

PTA への
協力依頼

②次年度に向けて取り組めること

- 学校を公開して学校や児童生徒のことを知ってもらう
- ボランティア自身の安全の確保も必要（保険も含め）特に交通整理や立哨指導は指導方法も検討する
- ボランティアの取りまとめや連絡方法の検討
- 地域の人と一緒に提案を考えることも必要か
- 校内の環境整備や安全点検を外部的目で確認してもらう
- 保護者や地域の方々の「こんなことが手伝えます」といったリストを作成する
- 除草ロボットやラジコン等の実機テスト用地として活用し、環境整備につなげる

市の社会福祉協議会・交通安全協会・ボランティア協会等

③2～3年後を目標に取り組めること

- 地域が総ぐるみで防災に取り組む
- 学校を避難所に、又は学校から避難するなど合同避難訓練を実施する
- 地域の方の見守りが実施できれば、子どもたちの安全確保にもなり、教職員の負担も減らすという面でも有効である
- 災害時の人の確保
- 学校が地域のためにできることも考えていく

地域から情報を
得る

専門家から
の指導

回覧板等で
自治会に周知

同世代の子を持つ育成会の方々

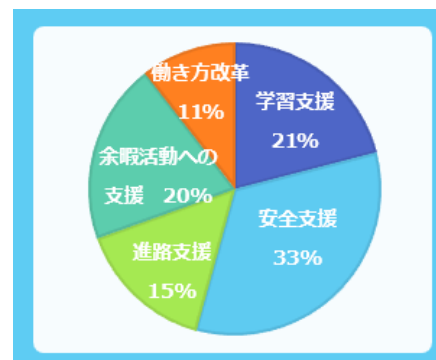
熟議 第2部「家庭や地域との連携」

現状と課題に関する説明（要旨）

教職員対象に実施したアンケートでは、「地域との連携でどのような力を育みたいか」という点に関し、**コミュニケーション力や社会性、協調性、主体性**といった意見が挙がりました。地域で生きていくために他者と関わる機会や、自分で考え行動する力が必要であると実感しています。また地域の方々にどのようにかかわっていただくについては、**安全支援**が最も多く挙げられました。第1部でも触れた日常的な**登下校の交通安全**や**災害時の支援体制**も望む声がありました。

また、教職員の声としては、以下のような意見がありました：「子どもたちが地域に戻ったときに、知っている人がいたり助けてくれる人がいたりするととても心強いと思います。**子どもたちの様子をまずは知っていただく**ことができたと思います」、「地域の方々に1度だけ子どもたちを見てもらうのではなく、**継続して子どもたちと関わり、子どもたちを理解する取組**ができるとよいと考えています」

本校の地域との連携における課題として、アンケート結果から以下の4点が挙げられます。①**出前授業**、②**総合的な探究の時間**、③**交流及び共同学習**、④**卒業後の学習機会**です。「誰でもいい、何でもいい」ではなく、カリキュラムの中で育てたい力に応じた関わり方を考える必要があります。この視点は第1部との違いであり、学びの一部として地域の方々に協力いただくことで、児童生徒が**社会の一員**であることを認識し、本校**卒業後に地域で生きていく力を育む**ことがねらいです。特に、高等部の「総合的な探究の時間」では、他者と関わりながら課題に取り組むことで、社会の一員としての自覚が生まれ、自分自身について考える活動が求められています。これを体系化し、地域との関わりや自己理解につながる時間にしていきたいと考えています。そのためには、作業学習との結び付きが自然な流れとなり、将来について考えるきっかけとなります。作業学習に御協力いただける方や団体に関する情報提供を、委員の皆様をお願いしたいと考えています。



総合的な探究の時間とは

学習指導要領には… **地域**や多くの他者とかわりながら

「主体的・協働的に取り組むとともに、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う」

自分自身や将来について考える活動を通して

ウェルビーイングの向上を目指す



◆本校の作業学習

流通サービス：喫茶サービスの基本・接客の仕方とマナー等

清掃：校内の廊下、窓清掃・清掃用具の扱い方等

農園芸：畑の手入れ・害虫駆除、除草・野菜の収穫など

エコクリーン：花壇、校庭等の除草・除草（肥料材料）の運搬
エコキャップ洗い、油キャッチ作り
段ボールのテープ剥がし

木工：やすり掛け・切断（丸のこや糸のこでの切断）・組み立て

手芸縫製：コースターの刺しゅう・果物チャーム他

紙工：材料作り（牛乳パックのラミネート剥がし、紙ちぎり、ミキサーを使ったパルプ作り）・製品作り（紙すき、水切り、印刷、のり付け、計量、包装）

軽作業：紙の裁断（スライドカッター使用）
型空け・表紙作り（絵の具で模様付け）

◆生涯学習体験活動等充実事業

障害のある生徒の生涯学習への意欲を高め、人生を豊かなものにするため、在学中から社会教育その他様々な学習機会に関する情報提供を行うとともに、地域のスポーツ団体、文化芸術団体及び障害福祉団体等と連携し、多様なスポーツや文化芸術活動、生活に役立つ教養教室を体験するなど、卒業後を見据えた教育活動の充実を図る。

R7:地域サークルとの童謡・コーラス等の歌唱による体験活動
（助戸公民館、11月・12月）

◆交流及び共同学習

足利工業高等学校産業デザイン科

足利大学附属女子高等学校ヒューマンケア進学コース

足利工業高等学校定時制 足利北中学校 大月小学校

交流及び共同学習
推進モデル事業

ワールドカフェ形式で自由に動き回り、意見を共有しました このテーマについて継続して熟議を重ねます

- 地域の専門家に教えてもらう ●作業学習における地元企業とのつながり（専門的な視点と地域への貢献の意識）
- 施設・企業等の団体とのつながり ●体験したいものに挑戦できるとよい ●講師のリスト作成 ●コーディネーターが必要
- 居住地ごとに集まり、地域密着の活動や学習の機会 ●「知る」ことでなくなる偏見はあるので、学校公開はよい
- 地域に支援者を増やすためには、学校が地域に出ていく。教職員もその意識が必要 ●子どもを地域へという保護者の意識改革
- 地域住民として特別支援学校に通っている子どもを知らないの、地域に出ていってほしい ●作業の材料の提供を呼び掛ける
- みどり祭や北郷文化祭でボランティア参加等のアンケートを実施 卒業後も実業に活かせる実習はできないか
- 教員OBのつながりを頼る ●制度を利用する ●孤立せず、幸せになれるように、相談するところはたくさんある
- 社会に出て役立つことが生きていく力になる ●同世代との交流の機会の拡大。イベント的でなく、課題解決に向けての取組

【おわりに】 第4回学校運営協議会は1月23日（金）を予定しております。地域との連携・協働について引き続き意見交換を行う予定です。また、学校関係者評価を実施し、今年度の取組を振り返ります。教育目標の達成につながったか、また子どもたちの「学び」が深まったかを検証していきたいと考えています。今後も、子どもたちが卒業後の姿を思い描きながら、心豊かに学びに向かえる体制づくりを目指します。「地域とともにある特別支援学校」として子どもたちのひとみ輝く未来のために行動します！（文責 早川）